

ウイルス・幹細胞システム医生物学共同研究拠点
京都大学医生物学研究所

参加
無料
定員250名
(先着順)

第16回 公開講演会



伊藤 貴浩
(医生物学研究所 教授)



望月 敦史
(医生物学研究所 教授)

医生物学研究所の船出

ウイルス・再生医科学研究所は、本年4月から「医生物学研究所」に改称しました。所員一同、新たな科学の地平を切り拓いていく所存です。今回は、若手の教授二人が登壇して、「幹細胞とは？がんと関係は？」「生命現象を数学で理解しよう！」という、最先端の話題を提供します。

2022年

7月9日 土

14:00~16:10
(13:30開場)

会場

京都大学百周年時計台記念館
百周年記念ホール

ウイルス・幹細胞システム医生物学共同研究拠点
京都大学医生物学研究所
第16回 公開講演会
医生物学研究所の船出

2022年 7月9日 土

14:00～16:10 (13:30開場)

会場

京都大学百周年時計台記念館
百周年記念ホール

プログラム 司会 橋口 隆生 (医生物学研究所 教授)

14:00～14:05 開会挨拶

河本 宏 (医生物学研究所長)

14:05～15:05 細胞の中から見える
「幹細胞」と「がん」の共通性と固有性

伊藤 貴浩 (医生物学研究所 教授)

幹細胞は、「多様な細胞を生み出す能力」を失わずに自らを増やす「自己複製」が可能な特別な細胞で、再生医療を始め様々な医療応用が期待されています。一方、現代社会に暮らす我々を苦しめるがん細胞も、無秩序に増殖を繰り返します。一見すると全く相反するこれらふたつの細胞の共通点と相違点についてお話しします。



15:10～16:10 生命システムを数理で解く
一遺伝子と遺伝子の関係性を理詰めで考えると…。

望月 敦史 (医生物学研究所 教授)

生物に数学を使う、と聞くと意外に思う方もいるかもしれません。実は数学は、現在の生命科学でなくてはならない道具の一つになっています。数理により新しい理解が生まれ、それが新しい実験を呼び起こす。そのような繰り返しによって、生命の複雑なネットワークが解き明かされてきた様子を紹介します。



定員 250名 (参加無料)

申込方法 事前申込制・申込先着順
参加ご希望の方は、下記からお申込みください。
<https://forms.gle/U8r9XzMnYqma6TcC7>

申込締切 2022年7月7日 (木)



※新型コロナウイルス感染拡大状況を踏まえ、中止や内容を変更しての開催となる場合があります。
※参加者の皆様の情報を適切に保護し、本講演会の開催・受付及び新型コロナウイルス感染拡大防止対策の目的以外には使用いたしません。

表面のデザインについて：左図は、伊藤貴浩教授の講演内容である幹細胞のイメージ図です。
右図は、望月敦史教授によるシグナル伝達系ネットワークの解析の結果を図案化したものです。